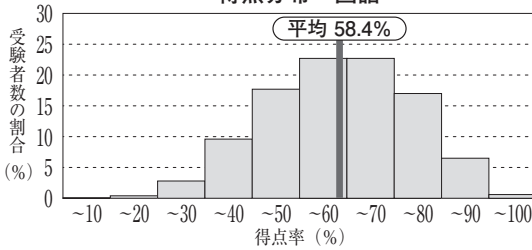


受験本番に向けて、基礎事項・解法の確認、時間配分も意識した直前学習に取り組もう！

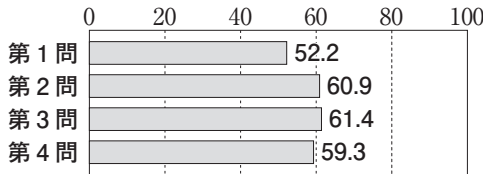
I. 全体講評

「最終12月センター試験本番レベル模試」の受験学年の平均点は一一・六・八点であった。内容を概観すると、前回まで低調で心配された古文・漢文はまずまずの出来であったが、逆に現代文が思わしくなかった。特に第1問の評論は五割を越えるのがやっとの状態であった。

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



第1問では得点源にしなればならない漢字問題が低調だったほか、読解や表現の問題でも誤答が正答を上回るなどの転倒が起こった。第2問の小説は全体の得点率は六割を維持しているが、やはり得点源にしなればならない語句の問題でミスをしている受験者が多い。問6の表現の問題もできていない。該当する諸君は、解説や解説授業でしっかりと復習しよう。

古典分野は古文・漢文とも、全体的にまずまずの結果である。得点のバランスも悪くなく、ある部分が極端に低いということもなかった。ここに来てようやく成果が表れてきたようだ。古文・漢文は直前学習によってさらに力を伸ばすことができる。油断をせず、努力を続けよう。

中にはまだ力が出しきれない者もいるだろう。しかししっかりと落胆せず、照準を本番に合わせて粘り強く頑張ることが大切だ。間違えた問題と苦手意識のある分野について、どこでどう間違えたのかを丁寧に振り返ろう。

現代文では、漢字や語句などの基礎問題で失点しては何にもならない。基礎問題では確実に点を取るのだということを強く意識して演習を重ねよう。漢字などは時間をあえてとるのでなく、「勉強と勉強の合間の気分転換にする」などの工夫をして、少しずつでも確認を行っていく。

今後は学習の密度をいっそう高め、緊張感と集中力の強化をはかってほしい。そして、本番で実力が十分発揮できる態勢づくりをしていくことを心がけよう。集中力を高めるには、線を引いたりメモを取ったり図式化したりする、などの作業も有効だ。これまで培ってきた自分なりの方法を活用し、最後まで気持ちを強くもって粘り強く取り組むことが、何よりの力となる。

新高3・新高2生はこの模試で課題を見つけ、本格的な国語の勉強を開始しよう。

II. 大問別分析

第1問 (評論)

今回の模試で対策を講じ、最高の結果を手にしよう！

第1問の得点率は五二・二%と低かった。ただし、今回の問題は、近年の現代文が難化したときの特徴を網羅している。このレベルの経験が、本番の難化にも冷静な対処ができることにつながるよう、確認をしておこう。

具体的には、①漢字問題が難しい、②四〇〇〇字クラスの長い文章、③多くの(注)である。

まず、漢字問題は、(ア)「醸成」が正答率五七・三%、(イ)「往来」が五三・六%と悪かった。セン

ター試験では高校生には身近とは言えない熟語も出題されているので、間違えた人は要復習だ。

次に長文と多くの(注)についてだが、センター試験の国語の最大の難しさはその分量の多さからくる「八〇分で解き終わらない」ことなので、時間配分が重要になる。ただし、時間がないからといって、(注)を完全に読み飛ばしてはいけない。人名については、読み飛ばしても問題ないことも多いが、解答に関わる重要な(注)もある。先にざっと(注)を眺め、重要そうなものを目星をつけてから問題文を読むなど工夫をし、せつかくのヒントを逃さないようにしよう。

今回特に難しかった設問は二つある。

まず、問4の正答率が二三・一%であった。「天文学者の視点」を説明している箇所が傍線部からやや遠く、誤肢に傍線部前後の言葉が散りばめられていたため、見分けにくかったようだ。

二つめは、問6(i)で、正答率は二〇・四%であった。実に五割弱の人が誤肢①を選んでいたが、これこそがセンター試験特有の難しさだ。主観的な説明のように見えて、実際に言われたとおりの文章効果が出ているのであれば、その説明は正しいとすべきだ。逆に②を選ばなかったのは、本当に「多様性成立の条件」について論じているかを検証できなかったからだ。

センター試験の国語は本文も選択肢も長く、時間不足になりがちだが、本文に立ち戻らないと正解は選べない。今回の模試を分析し、本番への作戦を練ってほしい。最悪に備える人こそが、最高の結果を手にすることができるのだ。

## 第2問 (小説)

人物の雰囲気や言葉に過剰に反応せずに、慎重な読みを心がけていこう。

第2問は得点率が六〇・九%で、センター試験の標準的なラインにおさまっている。文章量は一七年度のセンター試験をふまえ、やや多めにしてあるが、読み解くのにそれほど支障は来さなかったはずだ。内容は一七年度の野上弥生子とほぼ同世代の女性作家の作品で、太平洋戦争直前という時代的な雰囲気を感じ取ることが大切になる。その課題をクリアしている点では、今回の結果は、本番を間近に控える受験生にとって、自信を持っていい結果だといえるだろう。とはいえ、小説は最大の得点源にできるので、満点を目指そう。

設問別に見ていくと、問1では(i)の「屈託なげに」、(ウ)の「逆上しきって」の正答率が低かった。特に(i)は「弱気な一面などないように」の誤答が目立った。「くよくよすることなく」といったニュアンスから考えればよかった。

問2、問3、問4はそれほど簡単な設問ではないが、正答率が七〇〜八〇%台とよかった。ただし、問2では誤答が③に集まった。マリアンヌのもつ雰囲気によって「苦悩を追求」していると解釈したのだろう。冷静な読みを心がけたい

問5の正答率は三〇・七%と低かった。誤肢⑤を選んだ受験者が三二・九%と正答率を上回っている。自省的な主人公の言葉に過剰に反応し、主人公を「冷淡」な人物と片づけてしまったのではないだろうか。

問6の表現に関する問題は二つの解答ともに正

答率は低く、④は五一・七%、⑥は二九・二%である。誤答では③が四四・二%、①二七・一%で、④の「大きな迷い」では「にこにこして」いるマリアンヌの態度とはうまく調和せず、⑥も、墓地在「威厳」あるものとするには違和感がある。いずれもそれほど悩むことのないような設問である。最後まで集中力を絶やさないようにしよう。

## 第3問 (古文)

登場人物の心情の変化を読みとろう!

『はにふの物語』の、道心を持つ大納言の姫君と両親の葛藤を描いた場面で、得点率は六一・四%と健闘した。

問1の語釈問題は、(ア)は五割、(イ)と(ウ)は七割を超えてよくできていた。(ア)「なつかしき」は①「趣深い」への誤答が三割弱あった。(イ)は「なべて」、(ウ)は「道心」の意味はわかっていたが、文脈上の「見え」の意味や、係り結びの省略「にや」が「であろうか」と解釈することに着目していない誤答がやや多かった。

問2は敬語の種類と敬意の対象の問題で、五割を超える正答率であったが、aでは姫君が縁談を拒み、「いかがせん」とおっしゃる人物を両親とした誤答④・⑤が多かった。主語は変わっておらず困惑しているのは姫君である。他の選択肢との兼ね合いでも両親にはならない。

問3は、西行の和歌を見て道心を起こす姫君の心情を読み取る問題で正答率は七割を超えた。特に本文とは正反対の、結婚せねばと思った誤肢①を選んだ人は三%にとどまりよくできていた。

問4は、親不孝と道心との間で葛藤した姫君の考えを問う問題で、正答率五割を超えた。とりあえずは結婚を受け入れたとする②・④への誤答が多かったが、「なびくべからず」「つひに髪を下ろして」に見える姫君の決意を読み取りたい。

問5は、姫君の両親の心情の変化を読み取る問題である。「内参り」という語に注目すれば①・⑤に絞れるが、②・③・④に誤答が分散した。娘の器量に入内を考えたが、道心深い様子を見て、高望みせず結婚さえしてくればと考えている。

問6は内容合致問題で、正答率は約六割であった。誤答で集中したのは③で、二割を超えたが、道心深い姫君が変わり者だからこそ求婚者が多かったという記述はどこにもない。先入観で選択肢を選ばないようにしよう。

#### 第4問 (漢文)

**正答の根拠は必ず本文に求めよう！**

帰有光が潘子実という人物に送った学問に対する理想を述べた手紙からの出題で、得点率は五九・三％であった。読解問題では本文にはないそれらしい内容の選択肢への誤答が目立った。

問1の語の読みの問題は、頻出語(ア)「方(まさニ)」は七割近い正答率だったが、(イ)「窃謂(ひそかにおもふニ)」は約四割で、「謂」を「いふ」と読んだ①・③・⑤への誤答が合計五割近かった。「窃」の読みを覚えよう。

問2の語句の意味の問題は、(1)は八割、(2)は七割を超えてよくできていた。ただし、(2)は文脈上の「自大」がマイナス評価であることが読み取れ

ずに③への誤答がやや目立った。

問3は、本文前半から科挙のための学問の弊害を読み取る問題で、正答率は五割弱であった。誤答は③・④・⑤に分散し、どれもそれらしくはあるが、本文に書かれていない。「利禄」「為すべき事有るを知る」と本文にあるのがポイント。

問4は、返り点と書き下しの問題で、「無復」と再読文字「当」がポイントとなりそうだが、どの選択肢も読めているので、文脈にあう解釈ができるかで判断する。「為すべき事有るを知る」と読めているが、「無かれ」と禁止で読んだ④への誤答がやや多い。「しななければならないことを知ってはいけない」では文意が通らない。

問5は、經典の真意を明らかにすることについて述べた内容説明問題で、正答率は五割強であった。正答④は一時代の一学者によって明らかになるものではないというものであった。誤答が集中した①は、經典自体が一時代の一学者によって成ったものではないことになってしまっている。

問6は、学問について本文の趣旨を問う問題で、正答率は約六割であった。帰有光は潘子実のような学問態度を理想としており、些末な語釈や個人の主張にとらわれずに研究するべきと述べている。誤答で多かったのは、学問によって人生の目標を見つければと②と、細かい語釈を大切にすべきとした④で、本文に述べられていないものや本文とは反対の意味の選択肢であった。

### Ⅲ. 学習アドバイス

◆自分なりの戦略と計画を立てて、直前学習に取り組もう！

本番での得点を最大化するためには、残り少なくなった時間を、どこに、どのように使うのか、明確な戦略と計画を立てて学習に取り組もう。新しいことに手を出すのではなく、授業のテキストやノート、過去のセンター試験本番レベル模試、愛用の単語集や問題集。これらをしっかりと見直すことを中心に学習プランを立ててほしい。また、これまで蓄えた知識の総点検もおこう。

◎新高3生・新高2生

◆目的意識を持ち学習し土台を作ろう！

模試を連続受験した生徒は、前回の結果をふまえて、自分なりの目標と課題を設定して、受験に臨むことができただろうか。漫然と受けるだけでなく、「受験後の復習と結果の分析」↓「次回に向けての目標・課題設定」↓「計画的課題実行」というプロセスを着実に行うことが大切だ。

また、今回初めて受けた生徒は、「センター試験は教科書レベル」⇔「基礎レベル」という図式が、国語に関しては通用しないことがわかったはずだ。問題文の内容や設問の難度は、難関国公立大二次試験、難関私大入試レベルとしても十分に通用する。これまで国語の勉強を特にしてこなかったという生徒は、ここから、入試に向けた学習を開始してほしい。

早めにスタートを切ることが大切だ。